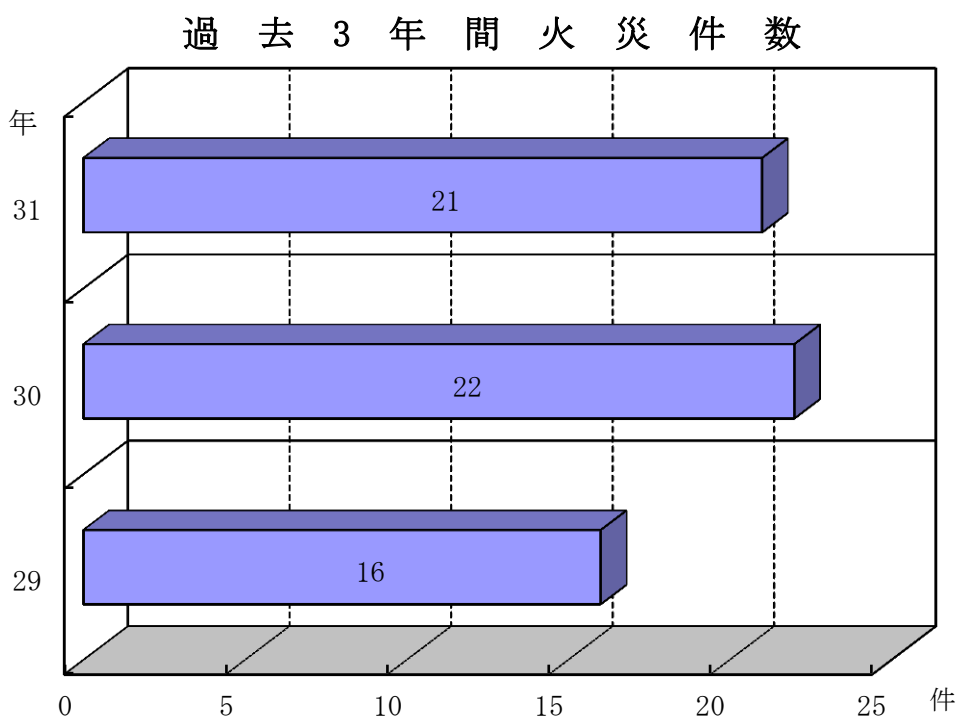


令和元年災害概況について

1 火災

「火災」とは、人の意図に反して発生し若しくは拡大し、又は放火により発生して消火の必要がある燃焼現象であって、これを消火するために消火施設又はこれと同程度の効果のあるものの利用を必要とするもの、又は人の意図に反して発生し若しくは拡大した爆発現象をいう。

過去3年間におけるかすみがうら市内の火災件数は下表の通りである。



(1) 出火件数

平成31年中の出火件数は21件で、前年と比較して1件の減である。

令和2年は本日までに16件の火災が発生している。

ア 火災種別

火災種別ごとの件数は、建物火災が最も多く13件と高い比率を占めている。次いでその他の火災（枯草、ゴミ、衣服等）が4件、林野火災1件、車両火災3件となっている。

イ 四季別

出火件数を四季別でみると第1四半期（1月～3月）7件、第2四半期、（4月～6月）6件、第3四半期（7月～9月）5件、第4四半期（10月～12月）、3件となっている。火災は火気使用頻度の多い冬から春先にかけて多く、高温、多湿の夏季は比較的火災が少ないのが例年の状況であるが、平成31年中は一年間を通して火災が発生している。

ウ 出火原因

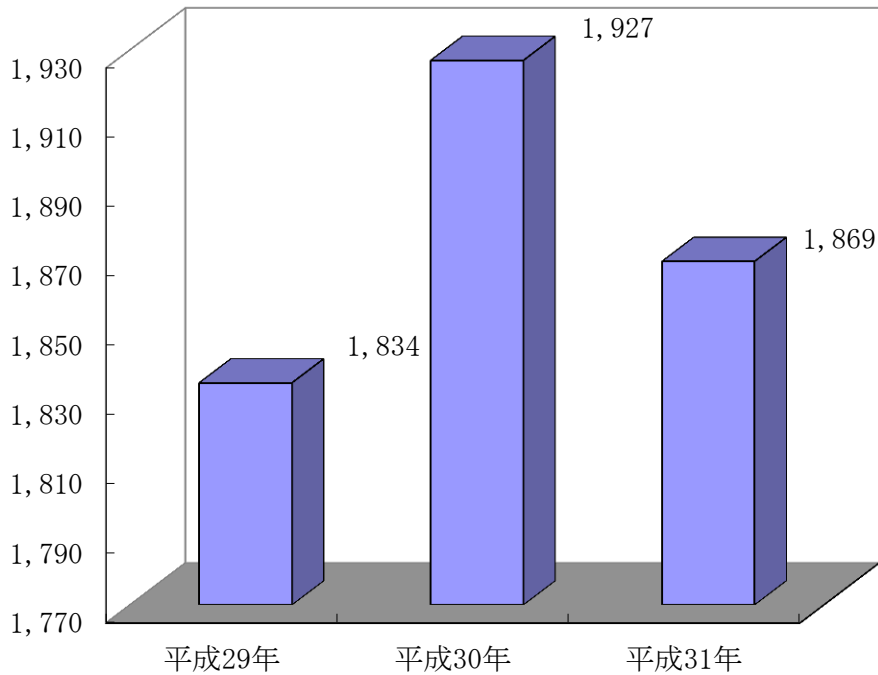
全国の火災総出火件数は37,538件で、出火原因は「たばこ」3,557件(9.5%)「たき火」2,911(7.8%)「こんろ」2,890件(7.7%)「放火」2,719件(7.2%)「放火の疑い」1,787件(4.8%)となっている。

かすみがうら市で出火原因の多いものでは「不明」9件、「放火」3件となっている。

2 救急

救急業務は、昭和38年に市町村の消防機関の事務として法制化され、平成3年8月には、プレホスピタル・ケア充実のため、救急隊員の行う救急処置の範囲が拡大されるとともに、高度な応急処置を行う救急救命士の制度が設けられた。平成15年4月から、救急救命士が行う処置は順次拡大され、救命率の向上を目指した救急業務の高度化が推進されている。

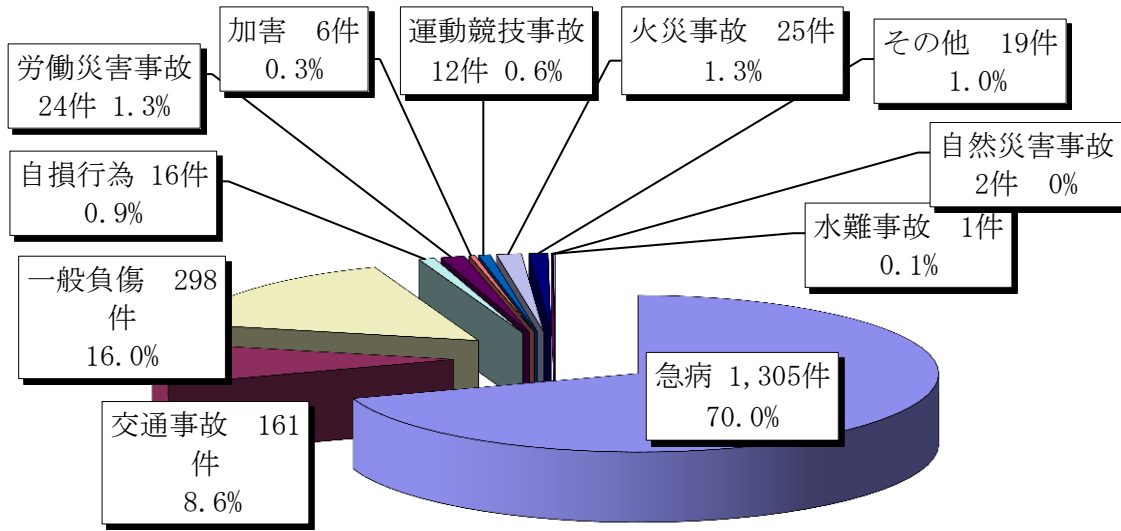
過去3年間におけるかすみがうら市内の救急出場件数は下表のとおりである。



(1) 救急出場件数

平成31年における市内の救急業務実施状況は、救急出動件数1,869件、搬送人員1,740人であり、1日平均5.1件の割合で救急隊が出動したことになる。前年と比較し58件の減少となり、夏季時期における急病件数が減少している傾向がある。特に7月を比較すると、平均気温が4度低く、熱中症の件数も昨年の48件から10件減少し、38件となっている。このことから、気温の低下が熱中症件数の減少や疾病の悪化減少に結びついたと考えられる。また市内の交通事故による出場要請件数が減少していることがあげられる。

(2) 救急種別出場件数

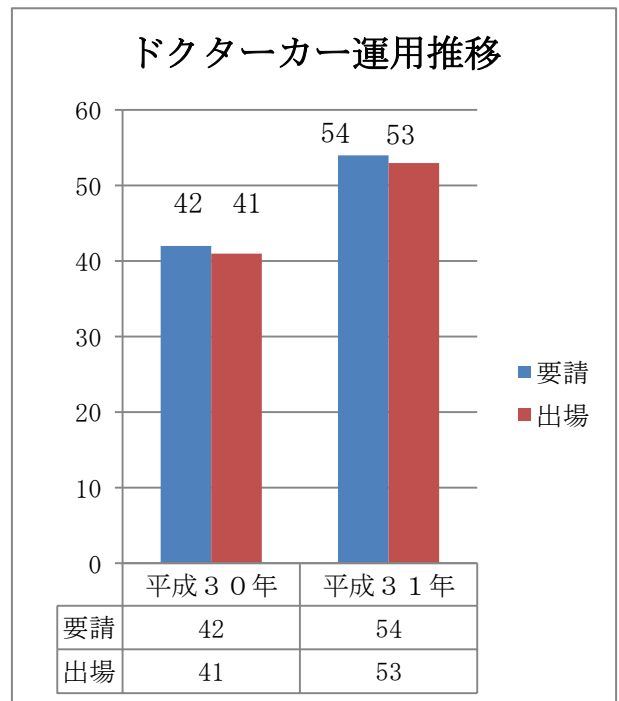
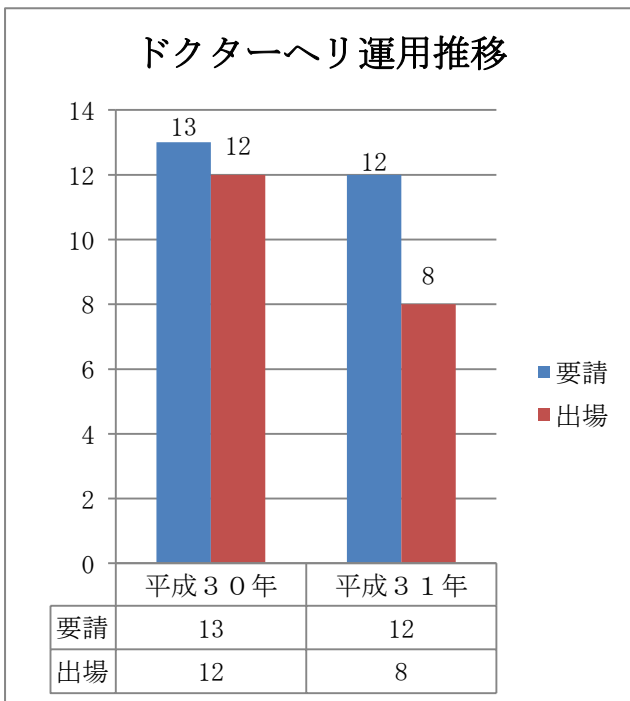


事故種別出場件数をみると、急病が7割、次いで一般負傷、交通事故となっている。

(3) ドクターカー・ドクターヘリ

平成31年茨城県ドクターヘリの出場件数は8件、土浦協同病院ドクターカーの出場は53件であった。

平成31年ドクターカー・ドクターヘリの運用推移は下記グラフのとおりである。



(4) 医療機関搬送人員

市 町 村 別	事故種別 病院別	火 災 事 故	自 然 災 害 事 故	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害 事 故	運 動 競 技 事 故	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
土 浦 市	土 浦 協 同 病 院	4	0	0	60	13	7	152	3	10	763	7	1,019
	神 立 病 院	0	0	0	54	4	4	77	1	1	138	0	279
	霞ヶ浦医療センター	0	0	0	17	2	0	12	0	0	110	0	141
	そ の 他 の 病 院	0	0	0	1	1	0	4	0	0	21	0	27
石 岡 市	山 王 台 病 院	0	0	0	11	0	0	5	0	0	32	0	48
	石 岡 第 一 病 院	0	0	0	0	0	0	4	0	0	10	0	14
	石 岡 医 師 会 病 院	0	0	0	1	0	0	2	0	0	2	0	5
	そ の 他 の 病 院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
つ く ば 市	筑波メディカルセンター病院	0	0	0	1	0	1	5	0	1	13	0	21
	筑波大学附属病院	0	0	0	1	0	0	2	0	0	25	0	28
	筑波記念病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20
	そ の 他 の 病 院	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	4
阿 見 町	東京医大茨城医療センター	0	0	0	7	1	0	4	0	0	42	0	54
	そ の 他 の 病 院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
笠 間 市	茨城県立中央病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
小 美 玉 市	石岡循環器科脳神経外科病院	0	0	0	9	2	0	11	0	0	40	0	62
水 戸 市	水 戸 医 療 セ ン タ ー	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	水 戸 済 生 会 病 院	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3	0	6
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
合 計		4	0	0	164	24	12	282	4	12	1,231	7	1,740

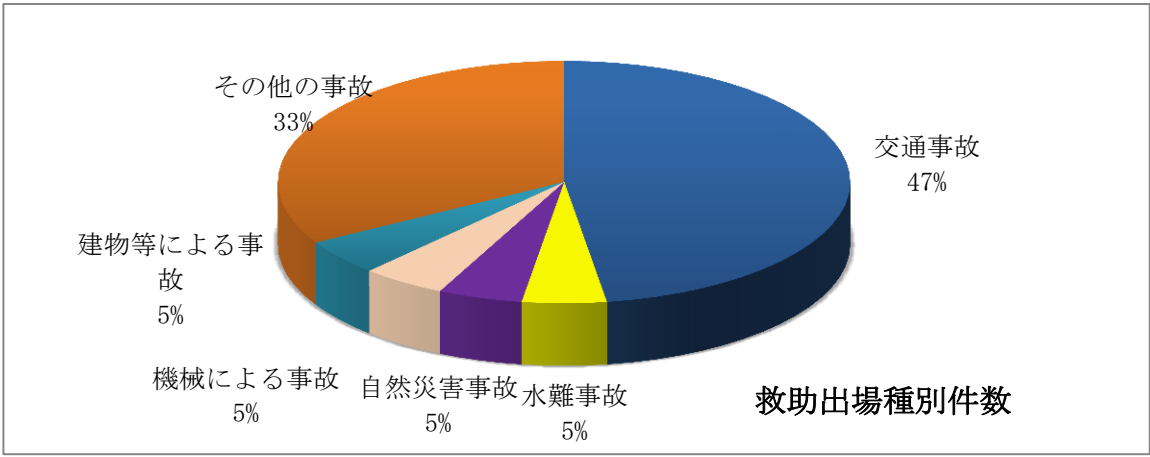
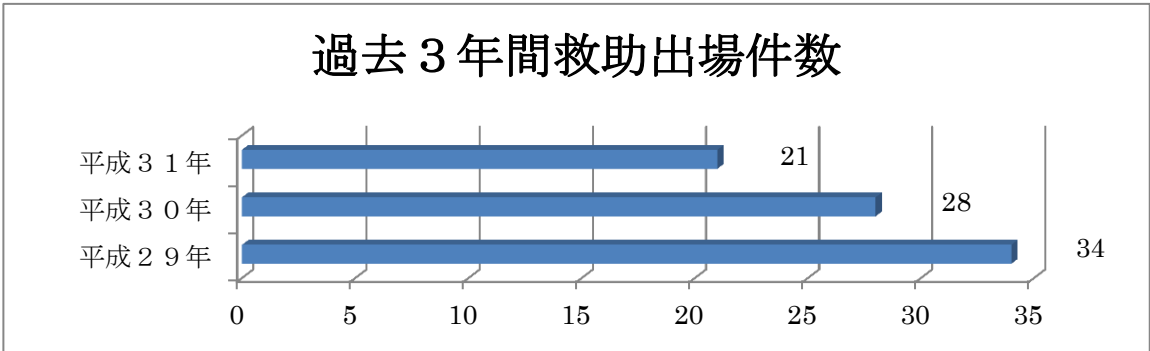
(人)

医療機関別に搬送人員をみると、土浦協同病院が最も多く1,019人で次いで神立病院の279人となっている。

また、市町村別医療機関の搬送人員をみると、土浦市内の医療機関への搬送が84%とほぼ大半を占めている。

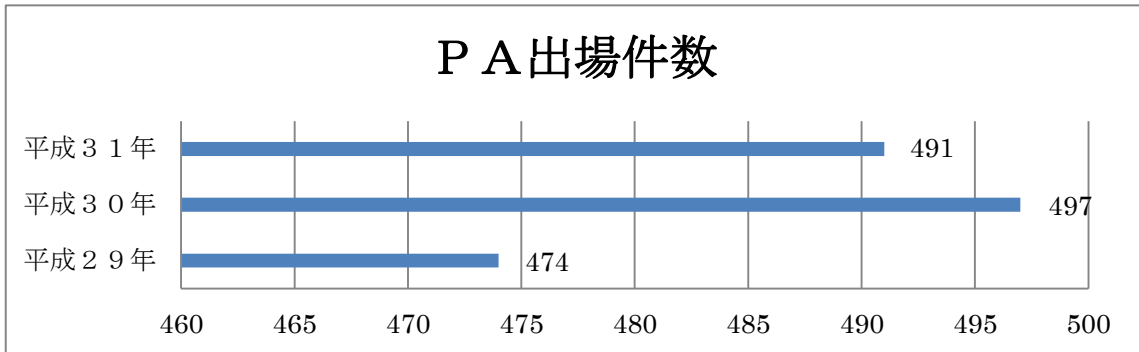
3 救助

平成31年における当消防本部の救助活動状況は、出場件数21件のうち活動件数は19件、救出した人員は15人でした。前年と比較して7件の減少となっている。原因別に見ると交通事故による救助活動が最も多く10件、次いでその他の事故となっています。



4 その他の出場（P A連携）

ポンプ車と救急車が同時に出場し、傷病者の搬送や救命処置を迅速かつ確実にを行うため、救急隊のみでは対応が困難な事態に備える場合や要請の内容から必要と認められる場合にP A連携として救急活動を行うものです。



P A連携で出場した件数は491件で、前年に比べ6件の減少となっています。

救急車と消防車が一緒に救急現場に行く場合がありますが、傷病者の救命、重症度の悪化防止、苦痛の軽減、安全確実に搬送することに努めてまいりますので、ご理解ご協力をお願いします。

新型コロナウイルス感染症の対応について

当市消防本部としまして、令和2年3月に新型コロナウイルス感染症に係る消防本部業務継続計画を策定、令和2年4月にかすみがうら市消防本部感染防止対策要領を改正し、職員に周知し業務を行っております。特に救急業務は、普段から感染防止対策に十分注意しながら活動しております。

かすみがうら市ではコロナウイルス感染症患者の発症者はいないものの、令和2年1月1日から6月30日までに816件の救急出場があり、新型コロナウイルス感染症の疑い傷病者41名を搬送しました。その中で2名の方がPCR検査を実施し、いずれも陰性判定となっております。発熱や呼吸苦症状などがあり感染の疑いを持った場合は土浦保健所に連絡し指示をいただいております。全事例通常救急搬送となっております。感染の疑いで搬送した場合は、感染拡大防止のため、感染防護服、マスクを処分し、救急車内にて資器材等をオゾン消毒及びアルコール消毒を実施しております。

当消防本部の対応としては、茨城県のコロナ対策指針ではStage1に緩和され、また全国を対象に県をまたぐ移動の自粛が解除された現在でも、県外では感染者が増加していることを考慮すると、どこで感染してしまうかわからない状況であり、対策を緩和することなく今までどおり継続する必要性を感じています。市民の皆様の安全・安心な生活を守るため全職員一丸となって取り組み、信頼されるかすみがうら市消防本部とするため全力を投入してまいります。